

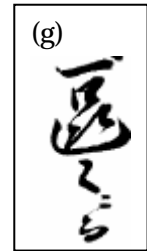
今でもよく使う言葉ですが...



(e)は、最初の字が「是」です。次の^迄は^之が入っているのはわかると思います。^取の部分「取」にも見えますが、「占」という字が書いてあり、「^迄 (まで)」という字です。この字は「迄」と同じ意味です。したがって、(e)は「是迄」です。



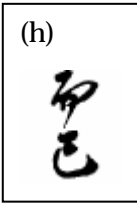
次に(f)は、最初の^免は「免」という字が入っているように見えます。次の^角は「角」にしか見えません。「免角」では意味がわかりませんが、このように字を書いてみると「^免角」という字が思い当たるかもしれません。たまに見かける用語です。



(g)は最初の^區が難問です。^區の中に^口というパーツを見つけることができれば、^口の中に「^口 (口)」というパーツは見えますから、「區(区)」という字が思い当たる

かもしれません。次の^之は「之」にしては、点が一つ足りませんから、「々」という字です。次の二文字は、前回も出てきた「二而(にて)」です。したがって(f)は「区々二而」となります。

(h)は、漢文に馴染みのある方なら、簡単だと思います。^而が「而」ですが、ここでは「て」とは読みません。この2文字で「^而已」です。



(i)は、最初の^跡が難しい字です。次の^宿は「宿」とわかんと思います。^跡は^言の部分「言」に見えますが、「跡」という字です。第19回で参考として出したことがあります。覚えていない方が普通です。ただし、この字は割とよく出てきますので、崩し方云々より、こういう字だとして覚えてしまった方が早い字の一つです。したがって、(i)は「跡宿」です。



最後に、(j)は最初の字が「式」にも見えます。しかし、次の^或は「者(は)」なので、最初の字も「或」で「^或者」となります。先ほどの「^免角」や「^而已」にしても、この「或者」にしても、今でも使う言葉ですが、漢字で見るとはあまりないので、難しいわけです。



史料 目立候紙生地、^{かみきじ}又者墨付等、^{または}御證文二有之節、^{おそれたてまつり}奉恐後難、
添書等いたし候義、(e)も有之候處、(f)當組合之儀、(g)其宿、(h)
申訳相立、(i)之難儀ヲ不顧、^{かえりみず}右墨付、(j)紙生地等有之、跡宿より
申継候、(k)持夫之者より、(l)其段、(m)以下略